



ニュースレター

News Letter GUNMA INSECT WORLD

昆虫の森



の森

ぐんま

2026

No.44

第20回ぐんま昆虫の森『虫の絵』作品展 入賞作品

県内265校から24,256点の参加があり、学校代表1,516点を館内で展示しました。



金賞



太田市立宝泉小学校 吉信 陸翔さん
『ヘラクレスオオカブト』



富岡市立富岡小学校 福澤 隆之介さん
『樹液を求めるミヤマクワガタ』



前橋市立桂萱東小学校 小平 真衣佳さん
『消えゆく田んぼの王者』



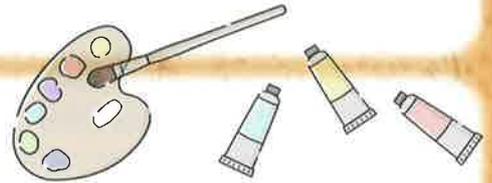
銀賞



前橋市立勝山小学校 内田 あかりさん
『庭にいるバッタ』



沼田市立利根小学校 星野 巧翔さん
『けんらんカマキリ』



伊勢崎市立名和小学校 小暮 太陽さん
『虹色に輝くハンミョウ』



銅賞

- 前橋市立原小学校 柴田 類さん
- 桐生市立境野小学校 伊田 祥真さん
- 前橋市立桂萱小学校 小倉 篤人さん

- 伊勢崎市立茂呂小学校 渡辺 瑛人さん
- 前橋市立上川淵小学校 腰越 俊輔さん
- 伊勢崎市立宮郷小学校 西谷 紗菜さん

20周年記念賞

- 高崎市立金古南小学校 金子 波瑠人さん

審査員特別賞

- 群馬県立聾学校 金子 里桜さん
- 草津町立草津小学校 セイラー 麗杏さん

モンリオール昆虫館

国立カナダ自然博物館

を

視察

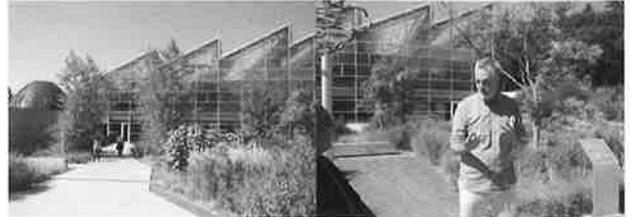
しました。



ぐんま昆虫の森のリニューアルのための先進施設視察として2025年9月15日(月)～19日(金)にかけて、カナダのモンリオール昆虫館および国立カナダ自然博物館を訪問しました。今回は視察した施設についてご紹介します。

モンリオール昆虫館と周辺施設

モンリオール昆虫館は、カナダ西部のケベック州南部の都市モンリオールにあります。モンリオール・オリンピック記念公園内に位置し、公園内にはスタジアムをはじめ、バイオドームという施設や植物園などがあります。昆虫館の訪問前にバイオドームと植物園を見学しました。バイオドームはアメリカ大陸の温帯、熱帯、寒帯といった気候帯の自然環境を体感できる施設です。ガラスなどで覆われた空間は、気候帯によって異なる温度設定がされており、それぞれの地域に生息する代表的な動植物を展示しています。展示している動植物等の解説などはほとんど見られず、目立たないところに小さく種名などが書いてある程度で、知識を得るよりも環境の違いを体感することに重点をおいた施設といえます。植物園は温室が連なり、熱帯や乾燥地帯の植物などを育成展示していました。ランやシダを集めた温室やサボテンなど乾燥地帯の植物、食物や香辛料などが利用する植物の温室などバラエティに富んだ展示内容でした。



モンリオール昆虫館と館長の Larrivée 博士

潜るような構造になっています。これは昆虫になって昆虫たちがどのような世界を見ているかを感じてもらうための仕掛けだそうです。昆虫の眼で見た映像や振動を感じるなど体感型展示がありました。続いて体を潜り込ませるようにして180度以上の視界で見ることのできるナナフシやゴキブリなどの生体展示があり、生体展示の次は、まるで地中のアリ塚の中のような半円形のドームの中に、美しくカラフルな昆虫や生態を模写したような標本が2000点以上ある標本展示室でした。標本一つ一つに種名ラベルなどは付けておらず、昆虫の多様性を感じ取ってもらうことに主眼を置いているとのことでした。



バイオドームの外観と展示空間

バイオドームと植物園を見学した後、今回の視察のメインである昆虫館を視察しました。館長であるLarrivée博士から昆虫館の概要や目的などの説明を聞いた後、昆虫館の中を案内していただきました。

展示室は、最初に狭く暗い通路を通過して地下に



生体展示と標本展示

標本展示室から地下の通路を歩いていくと一気に視界が開けます。熱帯の昆虫などがみられる温室です。ここではモルフォチョウやトラフタテハなど中南米に生息するチョウが飛んでいます。ハキリアリはケースの中ではなく、温室内の解放空間に作られた専用の通路を伝って、飼育室内にある巣へ切り取った葉っぱや花びらを運んでいます。日本では農作物を守るための法律である植

物防疫法により、外国産の生きた植物食昆虫の導入や飼育・展示は厳しく規制・管理されています。カナダでは日本より規制がかなり緩やかなようで、こうした外国産のチョウやハキリアリの展示は、うらやましくもあり、野外へ逃げた場合のことを考えると恐ろしくもありました。



温室の様子

トラフタテハ

ちなみに日本の昆虫館では、チョウは沖縄など国内産の種類を中心に卵からチョウになるまで世代を繰り返して飼育する累代飼育を行っていますが、カナダなど欧米の昆虫館では原産国からチョウのサナギを輸入して羽化したチョウを放しています。但し、経費が高いそうで、モンリオール昆虫館では将来的には2割程度を飼育して展示できればと言っていました。



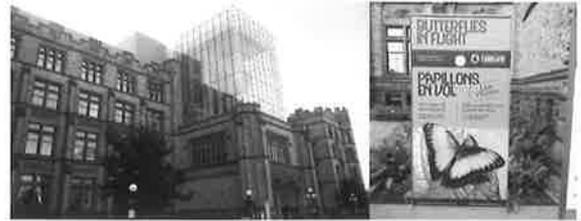
昆虫飼育室内の様子

展示に続いて飼育室などのバックヤードも見ていただきました。飼育室の雰囲気は、日本の昆虫館とよく似ており、使用している飼育用品なども日本で使用している飼育用品と同じようなものでした。

国立カナダ自然博物館

翌日は、首都オタワにあるカナダ国立自然博物館を視察しました。モンリオールからオタワまでは車で2時間くらいの距離です。博物館の展示施設はオンタリオ州のオタワにありますが、川を越えた隣街のケベック州ガティノーに博物館の収蔵・研究施設である自然遺産センターがあり、午前中はその施設を視察しました。ここでは研究者による調査や寄贈等により、収集した鉱物や化石、動植物など自然に関する数十万点の標本が保

管され、研究が進められています。尚、この施設の昆虫コレクションに関しては吉武(2014)で報告されていますので、参照してください。



国立カナダ自然博物館

午後は自然博物館の教育プログラムや昆虫の展示について視察しました。教育普及プログラムは専任のスタッフが数名おり、来館して実施する場合とオンラインによる遠隔授業によるものがあるそうです。オンラインではカナダ全土を対象として教育プログラムを届けています。

カナダ自然博物館の展示は自然全般に渡っていますが、昆虫展示では標本展示は少なく、主に生体を展示していました。また、視察に行った時には期間限定のチョウ温室展示を開催しており、コスタリカやフィリピン産の生きたチョウが見られました。



カナダ自然博物館の昆虫展示

モンリオール昆虫館、カナダ自然博物館の両施設の昆虫展示に関しては、そのほとんどが熱帯域に生息する大きな種類や色彩の鮮やかで見栄えのする種類を主体に展示しており、カナダの昆虫についてはほとんど触れられていないことが気になりました。涼しい気候で目立つ昆虫が少ないことも一因にあるかもしれません。

熱帯の昆虫の展示は、日本国内では法律等の関係で難しいものもありますが、今回の視察で見聞したことを今後の参考にしていきたいと思いません。

引用文献

吉武 啓, 2014. カナダ自然博物館の昆虫コレクションとその管理体制について. さやばね N.S., 15: 28-34.

(昆虫企画係 金杉隆雄)

第20回ぐんま昆虫の森フォトコンテスト入賞作品



昆虫部門 伊藤 芳春さん
『アイコンタクト』



自由部門 寄川 友美さん
『水面に浮かぶクモの花模様』



キッズ部門 小林 駿斗さん
『ちょうとハチの追いかけっこ』



昆虫部門 新道 涼子さん
『イモムシ団子』



昆虫部門 広瀬 邦仁さん
『やめろ！来るな！』



昆虫部門 大久保 誠さん
『森のベイツ型ペア(ハチモドキバナアブ)』



昆虫部門 青木 邦治さん
『夜の捕食者』



自由部門 小西 浩司さん
『昆虫の森の青い鳥』



自由部門 若槻 美咲さん
『上手に撮れたよ！』



キッズ部門 新道 蒼桜さん
『ラブ♡ラブ』



キッズ部門 新井 花蓮さん
『葉の下で…』



入園料

■一般…410円 ■高校生・大学生…200円 ■中学生以下…無料
※団体割引・年間パスポートあり。※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1人は無料。

開園時間・入園時間

■4月～10月…9時30分～16時30分(入園は16時まで)
■11月～翌3月…9時30分～16時(入園は15時30分まで)

休園日

■月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、年末年始 12/27～1/9
展示入替のため休園することがあります。公式HPでご確認ください。

※昆虫など動植物の持ち帰りはできません。
※虫かごの持ち込みはできませんが、虫あみの持ち込みはできます。
※ゴミはお持ち帰りください。
※ペットを連れたる入園はご遠慮ください。



ぐんま 昆虫の森
GUNMA INSECT WORLD

〒376-0132 群馬県桐生市新里町鶴ヶ谷460-1
TEL.0277-74-6441
FAX.0277-74-6466

アクセスマップ

